

神島高等学校

実施日時	令和2年11月5日（木）
参加者	生徒700名、職員50名、 計750名
実施内容	津波避難訓練

ねらい

近い将来発生が予想される大地震や大津波から、安全に“逃げ切る！”ため、生徒各自による速やかな避難行動への意識を高める。

主なプログラム

- 1 シェイクアウト訓練
- 2 避難経路を各自で選択しての避難訓練
- 3 振り返り

概要

1 SHRで、担任が①～③について確認し、アンケート用紙を配布して、訓練後に各自で記入しておくように指示する。（終礼で回収）

- ①本日、何時かわからないが津波避難訓練を行うこと。
- ②生徒は、田辺高校への避難を想定し、各自の判断で、速やかに避難を始める。
- ③混雑する場所・安全なルートを各自で想定しておくこと。

2 4限目に「大津波警報発令」と「避難指示」を放送し、各自が「てんでんこ」に田辺高校まで避難を行う。

○授業担当者は、生徒に安全な姿勢をとるよう指示。（シェイクアウト訓練）

○生徒・職員は、正門または通用門から出て、各自速やかに田辺高校へ向かってかけ足で避難を開始する。田辺高校下ラウンドを目的地とする。

○目的地の入り口にスポーツタイマーを置き、各自、時刻を確認する。

【想定】最大津波高12m 5m到達時間16分
10m到達時間24分

○点呼が終わったクラスは、田辺高校からさらに避難が必要になった場合の経路を確認する。

○帰校後のアンケート記入及び、5限はじめの校長講話により振り返りを行う。



参加者感想文

- ・ 神島生のみでも混雑していたので、地域の方々なども合わせるとかなり混雑しそうだ。
- ・ 田高まで行くのに割と時間がかかる。
- ・ 家で決めておいた方がいいことを、家族で話そうと思った。
- ・ 避難経路はしっかり確認しておかないと、今日みたいに迷うとタイムロスになるので気をつけよう。
- ・ 実際の災害時は道路状況も変わってくると思うので、臨機応変な対応が求められる。避難しているときに会った町の人も高齢な方が多かったので、余裕があれば助け合うことも大切だ。
- ・ 皆が一斉に避難するので自分でもう一度避難ルートを確認しようと思った。
- ・ 雨だったらもっと大変になるのだろう。
- ・ 本当に来たときは今日と同じようにはいかなから臨機応変に動くことが大切だと感じた。
- ・ 田辺高校だけでなく他の場所も確認しておこうと思った。

成果と課題

【成果】

アンケートによると、校舎内の移動については、「スムーズに移動できた」と回答した割合が昨年度の38%から51%へと増加し、「混雑し危険を感じた」が27%から15%へと減少した。

警察署の協力をいただき、安全に訓練を終えることができた。

【課題】

南海トラフの巨大地震が発生した場合の津波到達時間は、3mの波が15分、最大12mの波が26分と想定されているが、避難に15分以上かかっている生徒が多いため、訓練を重ねることで、意識を変えていく必要がある。

避難経路には、狭い道が多く、民家や塀が迫っており、危険な場所が多いことを生徒は認識したようだ。迷ってしまう生徒も何人かいたようで、日頃からルートを確認しておく必要がある。

また、アンケートによると、災害の備えについては、家での対策にまだ課題が見受けられるため、防災に関する情報提供が必要である。

今年度は、5月に避難経路の確認、10月に2・3年生によるアルファ米の試食等を実施したが、2月に予定していた1年生の自衛隊との防災訓練は、新型コロナ感染拡大のため、中止せざるを得なかった。海に近い場所にある本校にとって、津波避難訓練は必要不可欠であることから、来年度も複数回の訓練を計画している。